

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 211-8588
 住 所 神奈川県川崎市中原区上小田中4-1-1
 氏 名 富士通株式会社
 代表取締役社長 時田隆仁
 (代理人) 川崎工場長 小山晃生
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	富士通株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 中原区上小田中4-1-1		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	29	電気機械器具製造業
主たる事業 の内容	通信システム、情報処理システムおよび電子デバイスの製造・販売ならびにこれらに関するサービスの提供		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	26,202	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂

(第2面)

計 画 期 間	2019 年度 ~ 2021 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策の取組についてはホームページにて公表しています。 Http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

○事業者全体基本方針
富士通グループ環境方針を規定し、積極的な地球温暖化対策を進めていきます。

- ・優れたテクノロジー、ICTプロダクト、ソリューションによる総合的なサービスの提供を通じお客様や社会の環境負荷低減と環境効率の向上に貢献します。
- ・ICTプロダクトおよびソリューションのライフサイクルのすべてにおいて環境負荷を低減します。
- ・省エネルギー、省資源および3R（リデュース、リユース、リサイクル）を強化したトップランナー製品を創出します。
- ・社員一人ひとりは、それぞれの業務や市民としての立場を通じて気候変動対策や生物多様性保全を始めとした地球環境保全に貢献し、更に広く社会へ普及啓発を図ります。

○川崎地区環境方針
当拠点の活動、製品、サービスが関わる環境側面のうち、次の項目を環境活動の重点テーマとして取り組みます。

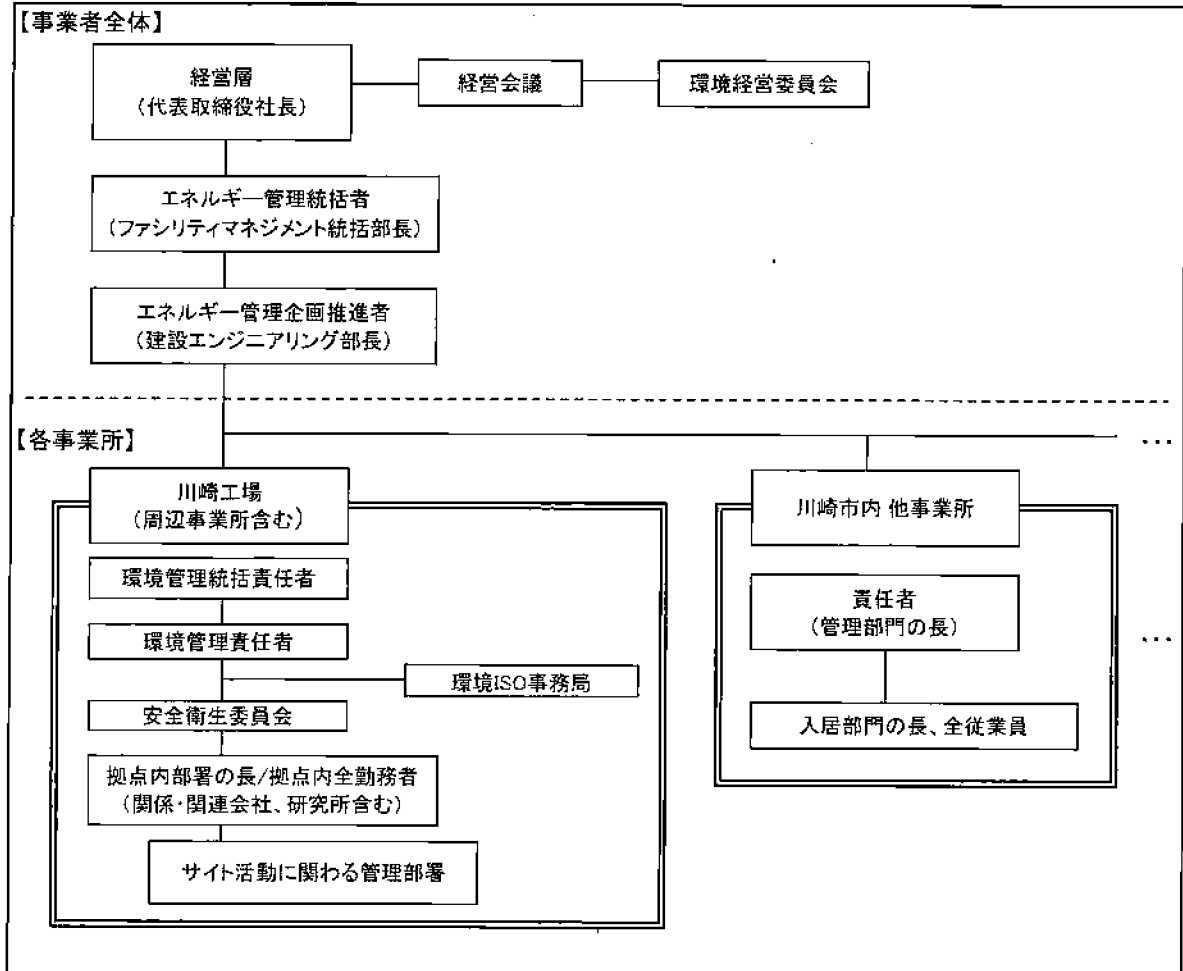
- ・自らの事業活動/事業拠点の温室効果ガス（GHG）排出量を削減する。
エネルギー消費CO2排出量の削減
- ・社会貢献活動の推進
良き企業市民としての活動

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（PDCAサイクル）を行うための方針

○基本方針
エネルギーの使用の合理化等に関する法律（以下、法律）に基づき作成している中長期計画書に掲げた計画内容について、毎年度進捗を確認し内容を更新する

- ・法律に基づき作成する定期報告書のエネルギーの使用の合理化に関する判断の基準の順守状況を毎年度見直し、内容を更新する

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（(実)は実排出量を、(調)は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等		
基準	年度	2018				年度
目標	年度	2021				年度
基準	排出量	(実)	49,502	(実)		
		(調)	48,247 t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
目標	排出量	(実)	47,578	(実)		
		(調)	46,372 t-CO ₂	(調)	t-CO ₂	
削減量		(実)	1,924 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
内訳	対策実施による削減量	(実)	582 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
	上記以外の削減量	(実)	1,342 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂	
削減率		(実)	3.9 %	(実)	%	

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原単位等の活動量					
原単位の単位					
基準年度の値					
目標年度の値					
削減率			%		%

ウ 目標設定に関する説明

2021年度（目標年度）の温室効果ガス排出量を2018年度比3.9%削減とすることを目標とする。

既存冷凍機の高効率型への更新や照明器具のLED化、IT機器数に応じた空調機稼働調整をおこなうことにより582tの温室効果ガスを削減し、省エネ施策以外の削減量1,342tの温室効果ガス削減を見込む。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容 (別表第1から6等を参考に記載してください。)

計 画	1. 冷凍機を高効率型に更新 2. 照明設備のLED化 3. 室内のIT機器台数や稼働状況に応じた空調機の運転管理
第1年度	/
第2年度	/
第3年度	/
計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)	/

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

○冷凍機を高効率型に更新 ○チラーを高効率型に更新 ○エレベーター設備の一部を高効率型に更新 ○LED照明の導入

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光	規模：50kw 導入場所：川崎工場 発電量：30,000kwh	2010年度
風力発電	グリーン電力証書の購入 規模：3,000kwh 場所：川崎工場	2016年度
風力発電	グリーン電力証書の購入 規模：3,000kwh 場所：川崎工場	2017年度
風力発電	グリーン電力証書の購入 規模：3,000kwh 場所：川崎工場	2018年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	○
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	とくになし
第1年度	
第2年度	
第3年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○グリーン電力の購入。 ○廃棄物の減量化、分別化の推進を図る。 ○栗木山王山緑地保全活動（森林保全活動）の実施 ○社会貢献活動として、環境教育実施の推進。 ○川崎温暖化対策推進会議（CCエコ会議）への参加。
第1年度	
第2年度	
第3年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	49,502	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

26,202	KL
--------	----

ウ 事業所の数

19

(2) 事業所等单位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
川崎工場	川崎市上小田中4-1-1	30,117 t-CO ₂
新川崎テクノロジースクエア	川崎市幸区新小倉1-1	7,456 t-CO ₂
第二中原システムセンター	川崎市 ※※※	3,867 t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
第一中原システムセンター	川崎市 ※※※	1,978 t-CO ₂
富士通中原ビル	川崎市中原区下小田中2-12-5	1,186 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂